

天における戦い

2009年1月11日 アシエル・イントレーター

黙示録には終わりの時の霊的戦いについて述べられています。その戦いは神に忠実な御使いたちと神に対抗する使いたち(悪魔)との間で行われます。**黙示録 12:7**「さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦した。」

基本的に私たちの戦いは血肉に対するものではなく、悪の霊的な力に対するものです。(エペソ 6:11-13; II コリント 10:3-5)。現在のガザでの危機は、我々の戦いはガザ市民に対するものではなく、その地を支配しているジハード、テロ、反キリスト、そして反ユダヤ主義の霊に対するものです。

この戦いが霊的なものであるため、戦車やロケットだけでなく国際世論や報道機関も関与します。イスラエルは異様な罠に捕らわれており、一方はハマスとヒズボラを通じてのイスラムのジハードと、もう一方ではマスメディアや国連の革新的左翼・人間至上主義者と戦わなければならなくなりました。兵士たちはテロリストと戦う勇気を持つ必要がある一方で倫理的な闘いにおいて最も厳密な原則に従い誠実と忍耐を持って行動せねばなりません。

発射されたすべてのミサイルは、戦闘機やヘリコプターに搭載されているカメラで記録されることによって、標的は検証されます。この戦争の間イスラエル軍が行っているこの種の予防措置を執っている軍隊は歴史上存在しません。市民たちが傷ついている理由は人間の盾として行動するようハマスによって騙されているからです。イスラエル軍の操縦席から撮影された映像にはハマスのロケットが学校、家々、そしてモスクから発射しているのが写っています。

ダニエル記 10 章には、預言者が3週間に渡り祈り断食しました。栄光をまとった主の御使い(イェシュアが降臨される前の姿)がダニエルの前に現れ(ダニエル 10:5-6)、彼に啓示を与えました。「終わりの日にあなたの民に起こることを悟らせるために来たのだ。なお、その日についての幻があるのだが。(ダニエル 10:14)」

啓示はダニエルの時代から遠い未来、終わりの日にイスラエルの民に対して何が起こるかというものでした。終わりの時のすべての啓示はイスラエルにつながり、またそれは戦争へとつながっています。

この幻は、天からの御使いがダニエルにこの戦いの状況について伝えるものでした。「私が、なぜあなたのところに来たか知っているか。今は、ペルシアの君と戦うために帰って行く。私が出かけると、見よ、ギリシャの君がやって来る。(ダニエル 10:20)」現代に言い換えると、ペルシアはイランです。現在イランはハマスとヒズボラの主要な資金源となっています。ギリシャは世俗的な人間至上主義が生まれたところで、現在その人間至上主義はメディアや国連に見られます。

主の御使いはこれら二つの力に対して戦っておられ、同様に現在イスラエルもこれらと戦っているのです。「しかし、真理の書に書かれていることを、あなたに知らせよう。あなたがたの君ミカエルのほかには、私とともに奮い立って、彼らに立ち向かう者はひとりもない。(ダニエル 10:21)」これらの悪の力に対してミカエル以外イエシュアと共に戦うその国を守護する御使いはいません。それはイスラエルを除いてその他の国々はこれらの力に対して戦おうとしないからです。

今週まで国連でアメリカだけが一貫してイスラエルを支持していましたが、今週の国連安全保障理事会での投票ではアメリカでさえ棄権しました。これら終わりの時において、イスラエルと主の御使い共に、誰が世俗的人間至上主義やイスラムのジハードの力に対して戦ってくれるのでしょうか。

1980年の頃、私は終わりの時のすべての聖書の御言葉を抜き出して、それらの意味を理解するまで何度も見直しました。そこでいくつかの簡単な結論に達しました。

1. 終わりの時の主要な出来事はイエシュアの再臨。
2. 主の再臨について最も明瞭に述べられている箇所は黙示録 19 章とゼカリヤ 14 章。
3. 主の再臨を理解する鍵は、この二つの御言葉を比較する事。

黙示録 19 章には、イエシュアが天から現れ、御使いの軍勢を率いて地上の国々を罰することが述べられています。ゼカリヤ 14 章には、諸国がイスラエルに対して戦うためにやってくるが、彼らに対してイエシュアが現れて戦うのです。

ゼカリヤ書の以下の箇所には世界中のすべての国々はエルサレムを攻めると4回も述べています。

**ゼカリヤ 12:3 「その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。
(中略)地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。」**

ゼカリヤ 12:9 「その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。」

ゼカリヤ 14:2 「わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。」

ゼカリヤ 14:12 「主は、エルサレムを攻めに来るすべての国々の民にこの災害を加えられる。」

霊的戦いはまた偽りに対する真理の戦いです。なぜ諸国は真理を聞きたがらないのでしょうか。なぜ彼らは騙されていることに気が付かないのでしょうか。パレスチナ国会のハマスのメンバーで

あるユニス・アル・アスティル博士がイスラム過激派の目標について語っています。「我々はローマを征服する。その後全ヨーロッパだ。そして我々は南北アメリカ両方を征服する。(B. D. イェミニ、マアリヴ紙週末版 2009 年1月9日より)」

私の友人である「F 氏」はヨーロッパの高校教師で今週私のスタッフに電話をかけ、あるイスラム教の生徒たちが、彼がイスラエルに反対する指導をしないことに対して彼を脅したと言ってきました。校長が彼を校長室に呼び、もしイスラエルに反対する指導をしないと仕事を失うことになることと伝えました。

世界中のどの場所においてもイスラムの優勢があり、福音を述べ伝える者が捕まったら、その場所でその人は殺される危険性があるのです。今日イスラム過激派の説教者が有名なハディース（訳注：イスラム教の第二の聖典と呼ばれている預言者言行録）を引用して言いました。「イスラム教徒がユダヤ人を殺さない限り死からの復活は来ない。そして石や木々が『我々の後ろにユダヤ人が隠れている』と声を上げるだろう。」

私たちの心からの望みは、メシアであられるイエシュア（イエス）を通してユダヤ人とアラブ人、イスラエル人とパレスチナ人が永遠の命、憐れみ、そして赦しを見出すことです。ガザが霊的にも政治的にも解放される唯一の方法は、ハマスが力を失うことです。ガザが解放されることを祈りましょう。ハマスがなくなることによってのみ、福音を述べ伝える機会が与えられるのです。その時のみ平和の機会が訪れるのです。

映像「ハマスの対立激化(17.1 MB)」のナレーションはイスラエル国防軍の広報担当官です。

<http://switch3.castup.net/cunet/gm.asp?ai=58&ar=longstoryshort-D&ak=null> (英語)